



ルーリン彗星

今年最初の話題となった彗星です。2月24日地球に6100万kmまで接近して明るくなると期待されましたが、特に明るくなることもなく、肉眼で微かに見えた程度でした。尾も長くのびることはなかったのですが、地球からの向きの関係で形の変化が激しく、多くの人たちがすばらしい写真を撮影しています。画像はインターネットで『ルーリン彗星』と検索するとたくさん見つかります。

また、ルーリン彗星以外にも10等級前後の彗星がたくさん見られました。中でも3月に発見された板垣彗星は、日本人の発見としては5年ぶりで、夕方の空で4月上旬まで見えていました。続いてイー・スワン彗星がカシオペア座で見つかり8等級で見えました。この彗星は北の低空ということもあり、本州以南では低すぎて見えなかったところが多かったようです。

綺羅星・星座ガイド

新シリーズ『星座ガイド』の始まり。このガイドは肉眼や双眼鏡、小型望遠鏡でも見ることの出来る天体を紹介します。

◎白鳥（はくちょう）座

白鳥座は夏の代表的星座の一つで、秋の夕方頭上付近を通りますが、ちょうど天の川の上を南に向かって飛ぶ姿です。星座は大きな十字型をしているところから南十字に対して『北十字』と呼ばれます。十字の北には 1 等星デネブがあります。明るさは 1.3 等と控えめな星



ですが、1500 光年という彼方で輝いているため、実態は太陽の 5000 倍もの光を放っているのです。なお、デネブは琴座のベガ、鷲座のアルタイルと共に『夏の大三角』を作っています。十字の南にある星はアルビレオという 3 等星で肉眼では 1 個の星ですが、双眼鏡で見ると 5 等星がぴったりと寄り添って見え、望遠鏡ではオレンジと青白い星に見えます。このような星を二重星といい、星の間隔や明るさはいろいろありますが、この星は色の組み合わせや星の間隔が良く、大変見やすく人気のある星の一つです。また、天の川の中にあるためまわりにはたくさんの星が見えてにぎやかですよ。

デネブの少し北の天の川の中に写真ではおなじみの星雲があります。その形が北アメリカ大陸に似ているため『北アメリカ星雲』といいますが、見るのは困難で、肉眼では“少し明るく見える気がする”程度ですが、空の暗い場所で双眼鏡で見ると何となく形



アルビレオ



北アメリカ星雲



網状星雲

が見えてきます。星雲は光が弱いので写真のように見えません。もう一つ、白鳥の東側の羽に『網状星雲』という超新星爆発した星の残骸があります。淡いので見るのは困難ですが、大きめの望遠鏡なら見る事が出来ます。このほか双眼鏡で見るとあちこちに星の集合（星団）が見つかります。

◎アンドロメダ座

アンドロメダ座は秋の星座の一つで、カシオペア座の南にあります。この星座の星の一つがペガサス座の四角形（秋の四辺形）の一つと共有しています。アンドロメダ座の基幹部分は一列に並ぶ3個の2等星です。そのうちの一番北側にあるアルマクという星環望遠鏡で覗くと5等星がぴったり寄り添っています。白鳥座



のアルビレオと似た組み合わせですが、こちらの方が接近しているので、双眼鏡では一つの星として見えるだけです。

真ん中のミラクという星から北西方向に 4、5 等星が並んでいますが、その先をよく



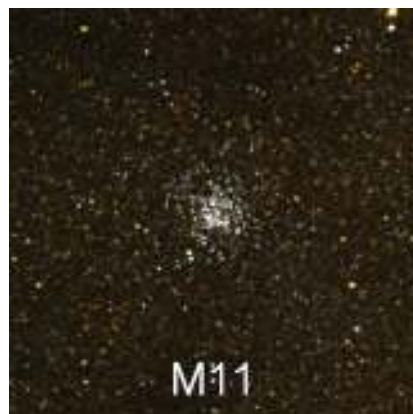
見ると、なにやらぼんやりとした小さな雲の切れ端のようなのが見えます。これが有名な『アンドロメダ銀河』で、肉眼でも見える数少ない銀河の一つです。この銀河は銀河系から 230 万光年と近いため大きく見えているのですが、あまりに大きすぎる（見かけの大きさが満月の 5 倍）ので、望遠鏡では全体が見えず、双眼鏡の方がよく見えます。ただ残念ながら渦巻きの様子は見えません。

◎盾（たて）座

たて座はいて座の北にある小さな星座ですが、星座を構成する星は 4 等星以下と暗いです。たて座は天の川の中にあってこの辺りが特に明るく見えますが、この部分を『スモール・スター・クラウド』といいます。W. ハーシェルはこの中に 33 万 3100 個の星を数えたと言います。



ですから、星の配列で星座を探すより、天の川の明るい部分として探す方が楽かも知れません。ここは双眼鏡で見るのがベストですが、よく見るとこの中にちぢんまりとした小さな星の群が見えます。M11 という星団で、望遠鏡で見ると 100 個ほどの星の群に見えますが、天の川の中にあるため周囲の星も含めると数え切れないくらい見えてきます。



◎水瓶（みずがめ）座

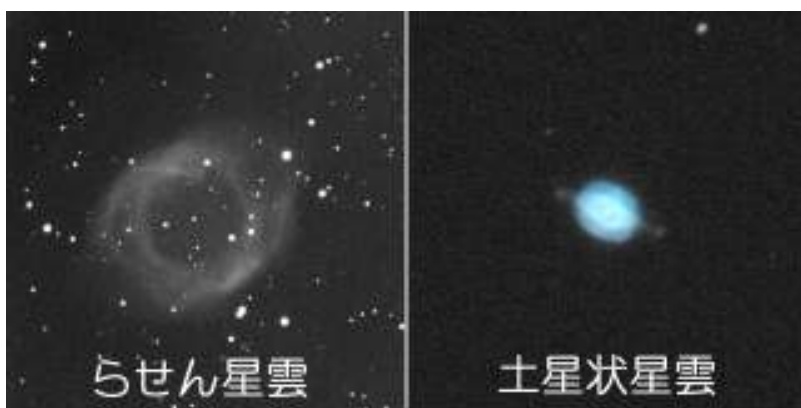
みずがめ座は誕生日星座としておなじみですが、秋の星座です。大きな星座ですが明るい星は少なく全体の姿はつかみにくい方です。星座の中で目立つ配列は、北側のペガサス座に接するところにある『三つ矢』マークでしょう。みずがめ座で特に目を引く星は

ありませんが、この『三つ矢』の真ん中の星は白い連星（互いの引力で引かれている星）があります。856 年周期で回る連星で、今は互いの間隔が狭く矢や大きめの望遠鏡が必要ですが、似たような明るさの星がピッタリ並んで見えます。

星雲や星団もいくつかありますが、星団では球状星団 M2 が見やすいでしょう。大きめの望遠鏡でたくさん



の星が見えてきます。この近くにある NGC 7009 という星雲は通称『土星状星雲』といます。新星爆発した星の残骸（惑星状星雲）ですが、その姿は今年の土星にそっくりです。また、NGC 7293 は『らせん星雲』と呼ばれる惑星状星雲で、見かけの大きさが月の半分ほどもあります。淡いですが双眼鏡で慎重に探せば微かに見えるでしょう。



「My Stars 通信」の天文図は **StellaNavigator6 (AstroArts)** を使用しています。

綺 羅 星 列 伝

今回は三遍ご覧ください。皆さんの星物語よろしくお願いします。お寄せいただいた物語はしょさんべつ天文台にあります。いつでも閲覧できますのでお立ち寄りの際はご一読ください。

星の名前 : NORI & JUN

夜空の星に興味を持ち始めて二人で競い合って星を覚え夜空を眺めていました。美里天文台、大塔コスミックパーク、佐治アストロパーク、六甲山 NTT 天文台、六甲山の荒地山や生石高原での星観測、いろんな所に星を見に一緒に行っ

た彼女が僕にこの星をプレゼントしてくれました。最初に覚えたオリオン座の星たち、それからたどる昴までそこにある牡牛座の中の星の一つ、いつまでも二人の想いでにと・・・いつか二人で初山別天文台に行くことを夢見て・・・

星の名前 : ATAREAL

今から 10 年前の秋、彼との旅行帰りたまたま通りかかり立ち寄った初山別天文台で My Stars system の事を知り、

A→私の頭文字、T A→彼の頭文字、
R E A L→当時 2 人でよく聞いていた曲の一部を取り
“ずっと一緒に居られますように★”と願いを込めて、登録しました。

あれから 10 年、私と彼は今も一緒にいます。この 10 年、本当に辛い事、悲しい事も 2 人で乗り越えて、過ごして来ました。結婚して 9 年経ちましたが、今も彼は、私にとって本当に大切に愛しい人です。

初めて天文台に行った日から、まだ一度も自分の目で星を見る機会がないままだったけれど、今とても私達の願いを込めた星に会いたくなり

ました。

星の話を知らない私達の子供にも、パパとママのステキな話を、星を見ながら聞いてほしいな。

近々会いに行きます。

これからもお互いが、かけがいのない存在であり続けられますように・・・。

たかちん。大好きだよ。

本当に甘えんぼうで、弱虫な私を、いつも側で支えてくれてありがとう。

あなたと出会って、結婚して私はとっても幸せです。

星の名前 : **Emiko, be ambitious!**

私がこの初山別天文台を訪ねたのは、初めて購入したマイカー(SUBARU ビストロ)がきっかけとなった、兄と二人でのビストロ運転旅行でした。『北海道一周』を目標に、地元栃木県を出発し、青森県からフェリーに乗ったのです。もちろんコースは綿密に計画済み。計画コース中には、この初山別天文台も含まれていました。

十分ゆとりを持って計画を立てたつもりでしたが、北海道の広大な大地には驚かされるばかり。宿にたどり着くだけで精いっぱい毎日が続いていました。目標はいつしか『何がどうあっても宿にたどり着く事』に変わっていたのです。

そしてその日も、大幅な時間遅れで何とか初山別天文台に到着したのです。もう、夜の時間帯になっていたのでしょうか？ 受付に急ぎ、星の登録手続きを何とか間に合わせました。名前は初めから決めておりました。

【**Emiko, be ambitious!**

(恵美子、大志を抱け!)]

私は、その日のノルマをこなした事にう満足でした。

宿に向かおうと、天文台を出て空を見上げま

した。その時の驚きと感動を、私は今も忘れません。闇の中に散りばめられた無数の星。そこに太くしっかりと流れる天の川。周囲には民家も無く、あるのは月と星が主張する明かりだけ。たったそれだけなのに、そこには込み上げるような感動がありました。ここまでこなれば、一生出会えない感動だったかもしれません。

あれから13年の年月が流れようとしています。あんな素晴らしい夜空を、私は未だに見た事はありません。あの感動は私の心に焼き付いたまま、いつかまた訪れる日を待ち望んでいるのです。あの、変わらない夜空を見るために。

私は今、その星の名の通り、抱いた大志を実現させようとしています。2009年の春、私は童話作家としてデビューします。一念発起して応募したとある懸賞で、なんと受賞することができたのです。私は今36歳。子供の頃から抱いていた夢が、いよいよ叶うのです。

これも、星に願いを掛けたおかげでしょうか.....

第18回 しょさんべつ星まつりのお知らせ

毎年恒例の星まつりを行います。今年は世界天文年ですが、しょさんべつ天文台の開台20周年でもあります。お時間のある方は是非遊びに来てください。

日時 : 2009年6月27日(土) 14:00 ~ 28日(日) 06:00

主な内容 : ペットボトルロケット作りと飛ばし大会、 惑星観測ラリー

嵯峨治彦(喉歌と馬頭琴奏者) ミニコンサート、 一晩中天体観望その他

こちら情報室

○天文情報（6月～11月）

流星・彗星

- 7月下旬から8月中旬の**みずがめ・やぎ座流星群**

出現数はあまり多くないですが、多く見られる時期は上弦から満月になり、やや見づらいでしょう。

- 8月13日を中心に**ペルセウス座流星群**

夏に見られる流星群では一番活発で、出現数が多く明るい流星もたくさん見られます。今年の極大は下弦前の月がありますが、明るい流星が多いので特に見づらいということもないでしょう。

- 10月21日未明に**オリオン座流星群**

夜中から未明にかけて見られる、ハレー彗星の関係する流星群です。今年は18日が新月なので月明かりは全くありません。2年前は活発でしたが今年はどうでしょう。

- 11月18日に**しし座流星群**

今年は月明かりがなく好条件です。大出現の可能性はなくなりましたが、過去の濃密部分に遭遇する可能性も指摘されています。17～19日の未明は要注意です。

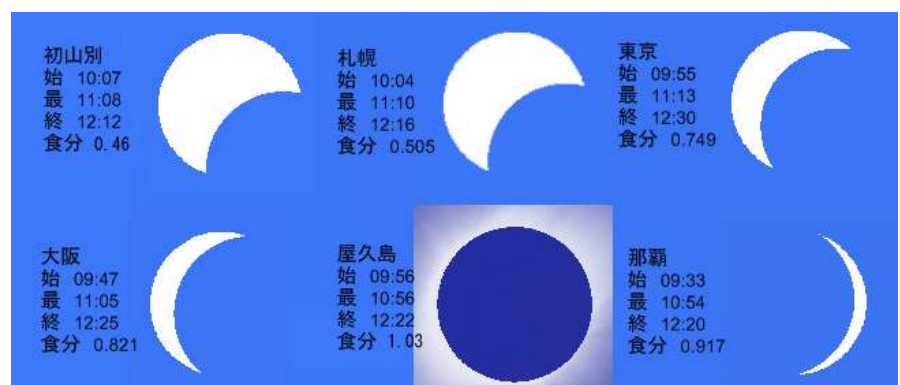
◎ 彗星を見よう

- 今年の前半は6～10等級の彗星はいくつも見られましたが、後半はどうでしょう。天文ニュースに注目しましょう。

日食・月食・星食

- 7月7日の夕方、半影月食が見られます。半影月食は地球の薄い影（半影）の中を月が通る現象ですが、月は半影の端を夕方の明るいときに通過するのでほとんど気づかずに終わってしまうでしょう。

- 7月22日の9時30分～12時30分（場所により違いあり）全国で日食が見られます。このとき奄美大島の北部、トカラ列島と屋久島全域、種子島南端では皆既日食が見られます。日本国内で皆既日食が見られるのは



46年ぶりで、皆既食の継続時間は6分半もある長いものです。皆既帯から離れるほどかけ方も小さくなりますが、初山別では46%、一番遠い稚内でも43%欠けた太陽が見られます。

- 7月4日と9月24日にさそり座のアンタレスが月に隠されます。どちらも日中なので見るには

● 月によるすばるの食が9月10日深夜と12月1日深夜に見られます。このうち9月10日は下弦前ですが見やすいでしょう。

海王星：8月18日に地球に接近しますが、天王星より遠いのでふつうの星とあまり変わりません。
大きな望遠鏡で衛星トリトンを見ることができます。今年は木星の近くにあります。

 (K)

- 8 -